

令和8年度当初予算案

令和7年度2月補正予算案



財政・変革局

令和8年度予算のテーマ：成長加速予算

～3つの「あつまる」と「地域の力」で～

トレンドが変わった北九州市の成長の勢いを加速し、実感できるステージへ
インフレによるコスト増の中でも「備えながら前に進む財政」を目指す

①

“人”があつまる

教育・子育て環境の質、
まちの彩りを高め、「行つ
てみたい」、「住んでみた
い」と、“人”があつまる

②

“投資”があつまる

企業や人が挑戦しやすい
環境を整え、国内外から
“投資”があつまる

③

“経験”があつまる

次世代へとつないでいく
力となる貴重な“経験”が
あつまる

土台の「地域の力」

R5年度「成長への再起動」予算
（「人」、「場」、「企業」の3つのポテンシャル
を最大発揮）
6,092億円

R6年度「成長への再起動（第2弾）」予算
（「空港」、「若者・子ども」）
6,279億円

R7年度「成長への反転攻勢」予算
（「女性」、「観光大都市」、「サステナブル」）
6,435億円

仕事と子育てを両立できる環境の充実

民間投資の拡大

都市ブランドの押し上げ

市民の暮らしを支える改革の推進

1964年以来となる2年連続の人口転入超過（令和6年+492人・令和7年+443人）
⇒ 多くのポテンシャルが動き出して生まれた「潮目の変化」

令和8年度一般会計予算案の構造

1 予算規模

令和8年度予算は、**6,477億円**(前年度比 +42億円、+0.7%) 過去最大

〔増要因〕

4つの 歳入 要因	●福祉医療関係経費の増加	+ 106億円(障害福祉サービスなど)
	●賃上げ基調を踏まえた人事委員会の勧告に基づく給与改定等	+ 43億円
	●公債費の伸び	+ 14億円(主に金利の上昇)
	●物価高の影響	学校、保育、ごみ処理関連等で+14億円

〔減要因〕

●「北九州市未来のまちづくり投资基金」積立金
(※前年度のような基金積立がないため) ▲200億円

(参考)

「北九州市未来のまちづくり投资基金」積立金の減の影響を除くと、
前年度比+242億円、+3.8%

2 歳入・歳出の概要

【歳 入】(主なもの)

市税等の一般財源は、前年度に比べ**88億円**の増加
3,189億円(前年度比+88億円、+2.8%)

●市税 **1,925億円**で**過去最高額**を見込む
(前年度比+40億円、+2.1%)

●県税交付金 **361億円**(前年度比+16億円、+4.6%)
※ガソリン減税・環境性能割の廃止による影響額:▲39億円

●地方交付税 **916億円**(前年度比+91億円、+11.0%)
※臨時財政対策債償還基金費(※1)を除くと**825億円**(前年度同額)

●公営競技事業会計の収益金の活用 **75億円**
(前年度比+25億円、+50%)

●財源調整用基金の活用 **152億円**(前年度151億円)

【歳 出】(主なもの)

●人件費 **1,181億円**(前年度比+82億円、+7.4%)
※うち退職手当による増加分を除くと前年度比+43億円

●扶助費 **1,841億円**(前年度比+92億円、+5.3%)

●公債費 **694億円**(前年度比+14億円、+2.0%)

●投資的経費 **644億円**(前年度比+2億円、+0.3%)
2月補正分を含む。適正水準(650億円/年)の範囲内。

3 市債発行額・残高

●市債発行額 **375億円**(前年度比▲12億円、▲3.1%)

●市債残高 **8,030億円**(前年度比▲15億円、▲0.2%)

4 次世代投資枠

●**105億円**

※令和6～令和8年度の3か年で**357億円**
(目標額である330億円を確保)

“人”があつまる

教育・子育て環境の質、まちの彩りを高め、「行ってみたい」、「住んでみたい」と、“人”があつまる

(1) 未来の人材を育むまちへ

①(新)学びの質向上パッケージ 5,796百万円(※2月補正含む)

「北九州市に来たい、住み続けたい」と思えるよう、小学校給食の無償化やAIを活用した学び、読書環境の整備などの取組をパッケージとして展開し、まちの未来の主役となる子どもたちの教育環境を集中的にグレードアップする。

【令和8年度からスタートする取組】

給食

市立小学校の給食費を無償化。おいしく栄養満点なメニューで子どもたちの健やかな成長を支援。

学校体育館エアコン

学校体育館にエアコン設置を本格的に開始。季節を問わず活動できる環境を整備。今後、全ての市立学校への設置を目指す。

AI+読書

AI型学習アプリによる「オーダーメイド」の学びと、いつでもどこでも本に親しむことができる環境の整備により、自ら探究する力を育む。

②(新)次世代デジタル人材

育成支援事業 1,116百万円

北九州市立大学において、「情報イノベーション学部(仮称)」を開設し、デジタル社会の最前線で活躍する次世代人材を育成するため、理工系の先端的な教育が受けられる環境をつくる。

(2) 子育て環境日本一のまちへ

③(新)第2子以降の保育料“完全”無償化 169百万円

「女性の選択肢が増え、望む選択ができるまち」を目指し、政令市で初めて、保育の必要性や施設の種類を問わず、定期的に通う第2子以降の“すべて”的こどもの保育料を“完全”無償化。

④(拡)医療的ケア児の支援強化

214百万円

医療的ケア児の保護者の負担軽減を図るため、在宅等の訪問看護の年間利用時間を拡充するとともに、医療的ケア児が安心して過ごせる環境を整えるため、学校や保育所に看護師等を配置。

⑤(新)5歳児健診モデル事業 10百万円

子どもの特性を早期に発見し、特性に合わせた適切な支援を行うとともに、生活習慣、その他育児に関する指導を行い、幼児の健康の保持及び増進を図るため、5歳児健診モデル事業を実施。

(3) 観光大都市への進化

⑥(新)すしをフックとした食の魅力発信・創造事業 63百万円

国内外から人を呼び込む食イベントの開催などを通じて、「すしの都 北九州市」をフックに豊かな食材と技が結集した多彩な食の魅力を発信。

⑦(拡)歌とアートのステージ創出事業 28百万円

市民が主役となる音楽イベントの開催や、市民主体の文化芸術活動を通じて、誰もが表現者・参加者として楽しめる新たなステージの創出を図る。

⑧(新)ウェルカム・キタキュウシュウ事業 242百万円

門司港レトロや小倉城などの観光地の魅力向上や受入環境の充実、体験・エンタメ型観光の創出、効果的な情報発信により、訪れる人をおもてなす環境を実現し、来訪者の周遊を促進。

“投資”があつまる

企業や人が挑戦しやすい環境を整え、国内外から“投資”があつまる

(1) 民間投資・企業集積の促進

①(拡)「小倉・黒崎ブースト」大作戦 645百万円

「小倉・黒崎」エリアに民間投資を呼び込み、次世代のまちづくりを展開。公共空間の再編に向けた官民連携のプロジェクトの検討・試行を加速させ、エリアの価値向上を図る。

③(新)「小倉デジタル城下町」推進事業 42百万円

小倉都心部にIT企業が集積する流れを加速し、全国的なブランドイメージを確立する。

②(拡)サステナブルシティ推進事業 91百万円

市民と産学官が参画する共創機関「リタラボ」を設置し、社会課題の解決に取り組むとともに、国内外におけるプレゼンスの向上を図り、「世界をリードするサステナブルシティ」の実現を目指す。

④(新)民間投資インセンティブの拡充（税制措置）

一定の基準を満たす産業用地等に係る固定資産税を最大6年度分免除するインセンティブを創設することで、民間投資を強力に後押しし、民間による産業用地整備と地域経済への還元を行う企業立地を促進。

(2) 都市基盤の整備

⑤ 旦過・折尾次世代まちづくりプロジェクト

6,227百万円(※特別会計含む)

旦過・折尾地区のポテンシャルを活かした総合的な再整備事業により、市内外から人や投資が集まる魅力的なまちをつくる。

⑥ 道路ネットワーク整備の推進

3,701百万円

主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備し、物流ネットワークの機能強化、地域間の連携・交流促進、市内の渋滞対策を実施。

⑦ 洋上風力の産業ハブ展開集積

プロジェクト 307百万円

洋上風力の稼働をテコに、企業誘致活動やブランド向上により、洋上風力の保守点検等を行う企業の新規参入及び既存企業の事業領域拡大の支援を実施。

開港20周年を迎えた北九州空港バリューアップAction【九州唯一の24時間空港の自由と可能性を活かし、需要を呼び込む】

★チャレンジコンセプト

【旅客】:東アジアとその先へ(国際)
ローカルtoローカル(国内)

【貨物】:滑走路3,000m化を推進
攻めの物流拠点化

⑧(拡)北九州ライトネットワーク拡充事業 218百万円

開港20周年を機にチャーター便誘致や台北線再開を強力に推し進め、世界へと広がる空のネットワークを構築することで、新たな“ヒト”的流れを生み出し、まちの賑わいを創出する。

⑨(拡)北九州グローバルエアロジスティクス拠点の構築 1,592百万円

滑走路3,000m化を1年後に控え、グローバルに拡大する24時間空港のポテンシャルを引き出す物流拠点を構築し、新たな“モノ”的流れを呼び込むことで「稼げるまち」の実現を加速させる。

“経験”があつまる

次世代へとつないでいく力となる貴重な“経験”があつまる

(1) 老若男女が、それぞれの得意や経験を活かしたい想いに応える環境づくり

①(新)「ケイケン・タカラ」プロジェクト
71百万円

高齢化率が高いことを武器として、豊かな人生経験や知見を次世代につなげる登録制度の創設を行い、起業の促進やキャリア支援から長期インターンまでを一気通貫で行うマッチング支援(人材バンク)等を通じて、長年培われた経験を「地域の宝」として活かすまちを目指す。

②(新)Woman's CHOICE推進事業
15百万円

女性のキャリア実現、健康支援を目的として、父親の短時間勤務の推進やフェムテックの導入・活用に官民連携して取り組む。また、女性が、つながりや想いを共有・発信できる場の創出として、オンラインコミュニティを構築。

③ シン・ジダイ創造事業(若者のチャレンジ応援)
40百万円

「日本一若者を応援するまち・北九州市」の実現に向け、若者の自由な発想や提案を引き出し、それらを実現させるための伴走支援等を実施。

(2) まちの技術力を高める

④(拡)フィジカルAIの推進等 未来産業の強化
238百万円(※一部再掲)

産学官が連携した研究開発や人材育成により、ロボットや自動運転等のフィジカルAIをはじめ、半導体、宇宙などの未来産業の集積や地域産業の高度化、新ビジネスの創出・発展を図る。また、スタートアップの成長を加速化させるため、優れたサービスの公共調達で一気通貫で支援する。

⑥(拡)水素拠点化推進事業 22百万円

市内で水素の利活用を検討する事業者に対し、検討フェーズごとの支援を行うことで水素拠点形成を推進し、地元企業の脱炭素化と国際競争力強化、市内への新たな産業集積を促進。

⑤(新)中小・中堅企業の成長支援 244百万円

DX・GXの推進により、市内の9割を占める中小企業の生産性向上・高付加価値化や賃上げ環境の整備、事業承継を支援するとともに、新規事業創出の取組など、地域中核企業の飛躍的成長への挑戦を支援。

⑦(拡)エンタメ体験都市づくりの推進 (企業誘致予算の内数)

まち全体が舞台となり、楽しい、面白い、心に残る体験ができる都市を目指し、エンタメコンテンツやIP(知的財産)、体験型ホテル等のサービス・コンテンツ産業の誘致に取り組む。

「地域の力」を強める

市民の安全・安心と幸福(Well-being)の土台である、地域のつながりの再生と強化を図る

(1) 誰もが参加しやすいサステナブルな地域コミュニティへの進化

①(新)「まちの縁側・リビング」設置促進 19百万円

生涯学習センターや市民センター等に、誰もが我が家のようにくつろげる「まちの縁側・リビング」を設置する。多様な世代が日常的に集い、語らう場を創出することで、地域コミュニティの絆を深める拠点づくりを推進する。

②(新)地域のチカラつなぐ事業 14百万円

市民どうしの“互助”を促進するため、個々のスキルや空き時間を地域で役立てる「タイムバンク」の社会実装に向けた調査研究を行う。また、回覧板のデジタル化やLINE活用により地域情報のスムーズな伝達と共有を図る。

(2) 地域の様々な課題解決に向けた仕組みづくり

③(新)北九州市「クリーンタウン」プロジェクトの推進 2,000百万円

客引き行為の取り締まり強化に向けたAI防犯カメラの導入や、ごみステーションにおける折り畳み式容器の普及促進、雑草対策の推進など、「客引きゼロ」、「まち美化」、「除草・防草」を柱とした、官民連携による、心地よく快適なまちづくりを推進する。

⑤(新)介護に寄り添うテクノロジーの普及啓発 39百万円

「テクノケア北九州」を拠点として、産学官連携のもと、テクノロジーを活用した介護が必要な方の新たな在宅生活モデルの提案・実証を行うとともに、介護人材不足への対応として、介護ロボット等を活用した先進的介護「北九州モデル」の普及促進を図る。

④(新)未来につなぐ公共交通ネットワークづくり 243百万円

誰もが安心して移動できる未来を目指し、時代のニーズに合わせた新たな移動手段の確保や持続可能な公共交通ネットワークの再構築を進める。あわせて、公共交通空白地帯の解消に向け地域を支える官民連携を進める。

⑥(拡)市民のいのちと健康を守る政策医療提供体制の確保 4,142百万円

「救急医療」、「感染症医療」、「災害医療」等の政策医療について、医療ニーズを見据え、提供体制の持続可能性を確保する。

地域特性に応じた事業の実施

⑦(新)区役所発・くらしアップ実感事業 38百万円(※一部再掲)

市民の日々のくらしのニーズをまちの最前線で直接触れる区役所の企画立案力を活かし、地域の実情や強みを活かした地域課題解決への取組を推進する。

⑧(新)次の10年・地域づくり先行モデルプロジェクト 9百万円

次の10年を見据えた地域コミュニティの形を先導するモデル地区を選定し、事務負担の見える化・最適化や、特性を活かした多世代協働のモデル事業を実施。

令和7年度2月補正予算(概要)

長引く物価高の中、『生活者支援』と『事業者支援』の両輪で、市民のくらしと経営基盤を支えるとともに、学校施設や道路・街路等の整備など必要な支援・事業を実行するもの。

一般会計予算規模:174.2億円 [特別会計:13.6億円 企業会計:159.2億円 全会計:347億円]

(1)物価高から市民生活や企業活動を広く支える 16.4億円

生活者支援

令和8年度当初予算計上 21億円 (重点支援地方交付金活用額)

◎北九州市くらし応援商品券(プレミアム付商品券)発行

◎給食費の保護者負担軽減

◎地域公共交通1日フリー乗車券及びタクシー券の購入支援
5億4,500万円

(2)国の補正予算を活用した 公共インフラの整備 79.2億円

◎学校施設の整備 48億7,466万円

体育館エアコンの新設やトイレの洋式化、校舎の老朽化対応等を実施

◎道路・街路等の整備 3億2,664万円

戸畠枝光線道路改良工事等を実施

◎港湾施設の整備 5億7,100万円

物流効率化のための航路の整備や岸壁の老朽化対応等を実施

◎上下水道の整備 21億5,107万円

上下水道管の地震対策や改築更新等を実施

参考:重点支援地方交付金の活用状況
(生活者支援:58.5億円)
(事業者支援:15.0億円)

事業者支援

◎中小企業への支援 2億6,000万円

中小企業の省エネ投資、新商品・新サービス開発等の取組及び
賃金の引き上げの取組に対する支援

◎福祉サービス事業所等への電気代・食材費等支援

8億3,166万円

(3)保育士等の人工費引き上げや 福祉サービス等の利用者増への対応 42.7億円

◎保育所等への給付 34億1,424万円

保育士等の人工費引き上げによるもの

◎障害福祉サービス関連支援 7億2,700万円

サービス利用者の増加によるもの

など

<その他> ◇一般会計:令和6年度決算剰余金や運用益の基金積立金、国の最高裁判決に伴う生活保護費の追加給付など53.2億円
◇特別会計:令和6年度補助金等の実績確定に伴う国・県費の返還(国民健康保険特別会計)など17.8億円
◇企業会計:モーターボート競走事業の舟券販売好調による払戻金等の増加(公営競技事業会計)137.7億円

北九州市における物価高対策(生活者支援)のカバー範囲 【概念図】

